

「*n*からはじまる未来創造」をスローガン(合言葉)に、創業時から変わらぬ価値観を大切に、「一步先ゆくエンジニアリングから、社会基盤をアップデートする。」をミッションに掲げ、お客様と社会が抱える課題の解決に貢献する技術開発と製品化を追求しています。

創業 ▶

戦後の復興と建設機械分野へ進出

創業当時は、ショベルやスコップなどの製造販売を行っていましたが、1951年にウインチ、コンクリートミキサなどの機械分野へ進出しました。その後、戦後の復興に向けて、1956年にパッチャープラント、1958年にはアスファルトプラントといった建設機械の生産を開始しました。



第1号ショベルを生産 (1920年)



ウインチなどの機械分野へ進出 (1951年)



アスファルトプラント1号機を生産 (1958年)

1970年 ▶

機械の大型化と公害防止ニーズが台頭

経済成長とともにプラントの大型化と深刻化する公害に対するニーズが台頭してきました。海外からの技術導入などを進めることで公害対策、自動化などに対応した製品を提供してきました。



アスファルトプラント240t/hを開発 (1972年、現在でも国内最大級)



リサイクルプラントを開発 (1977年)



公害対策アスファルトプラントを開発 (1970年)



コンパクトコンクリートプラントを開発 (1979年)

1990年 ▶

震災対応ニーズの台頭と環境分野へ進出

1995年に阪神・淡路大震災が発生し、震災対応と高品質なコンクリート製品へのニーズが台頭しました。環境問題への関心の高まりを背景に環境分野へ進出しました。



缶ビン選別圧縮機「リサイクル4」を開発 (1998年)



WELLターバーナを開発 (2005年)



DASH-200Nミキサを開発 (2007年)



ダブルホットビンプラントを開発 (2009年)



省スペース対応ユーロタイプアスファルトプラントを開発 (2009年)

2010年 ▶

海外市場の開拓に加え、コア技術を活用した環境関連分野を強化

2011年に中国山推日工建設機械有限公司の工場が稼働を始め、海外市場の開拓に向けた展開を進めました。脱炭素化ニーズの高まりなどを背景に、環境貢献製品の強化を図るとともに、KLEEMANN社の自走式破砕機の国内独占販売契約を締結しました。



新型アスファルトプラント Value Packシリーズを開発 (2016年)



自走式破砕機 KLEEMANN 取り扱い開始 (2015年)



BP操作盤 Cyber Advanceを開発 (2018年)



自走式コンベヤ Trackstack 取り扱い開始 (2018年)



震災復興用プラントを納入 (2013年)



リサイクル合材主体 MBDシリーズを開発 (2014年)

2022年 ▶ 現在

新燃料対応バーナの開発などを強化

脱炭素社会の実現に向けた新たな技術開発に加え、AIや遠隔技術を活用した自動化・省人化などのお客様の課題解決に向けた製品開発を強化しています。



画像AI認識選別システムを開発 (2022年)



国内初のアスファルト合材の遠隔出荷に成功 (2023年)



水素専焼でのアスファルト混合物の製造及び試験施工を実施 (2023年)



世界初となるアンモニア変換の水素を利用した水素バーナ対応型アスファルトプラントの開発に着手 (2022年)